

男女共同参画推進関係予算案 (単位:100万円)

主要事項	所管	13年度予算
1. 政策・方針決定過程への女性の参画の拡大	人事院	4
	総務省	(583)
2. 男女共同参画の視点に立った社会制度・慣行の見直し、意識の改革	厚生労働省	120
	国土交通省	(6)
	総務省	66,760
3. 雇用等の分野における男女の均等な機会と待遇の確保	厚生労働省	66,468
	経済産業省	7
	経済産業省 *財投	277
	総務省	277
	国土交通省	8
4. 農山漁村における男女共同参画の確立	農林水産省	33,921
	農林水産省	33,921
	農林水産省	(513)
5. 女性の職業生活と家庭・地域生活の両立の支援	総務省	1,321,578
	文部科学省	2,293
	厚生労働省	1,315,997
	内閣府	582
	環境省	2,706
	警察庁	(34,100)
	経済産業省	(4,232)
	国土交通省	(2,399,203)
	総務省	7,170,910
	総務省	1,654
6. 高齢者等が安心して暮らせる条件の整備	厚生労働省	7,164,181
	経済産業省	4,687
	経済産業省	(4,232)
	経済産業省	(9,050)
	内閣府	60
	文部科学省	128
	警察庁	(34,100)
	国土交通省	(2,280,337)
	警察庁	5,274
	7. 女性に対するあらゆる暴力の根絶	法務省
厚生労働省		128
外務省		2,874
外務省		32
人事院		3
8. 生涯を通じた女性の健康支援	厚生労働省	24,656
	文部科学省	22,037
	農林水産省	1,478
	農林水産省	1,100
	警察庁	41
9. メディアにおける女性の人権の尊重	文部科学省	30
	文部科学省	30
	経済産業省	(180)
10. 男女共同参画を推進し多様な選択を可能にする教育・学習の充実	総務省	68,764
	文部科学省	68,444
	厚生労働省	305
	経済産業省	15
11. 地球社会の「平等・開発・平和」への貢献	総務省	692
	外務省	473
	文部科学省	16
	厚生労働省	66
	農林水産省	116
	環境省	22
	環境省	22
第2部 施策の基本的方向と具体的施策の合計		8,692,710
第3部 計画の推進		418
内閣府		405
法務省		
総合計		8,693,128

5 女性別望*2001年4月号

平成13年度
女性関係予算案

約八兆七千億円!!



内閣府
農林水産省
警察庁
厚生労働省
文部科学省

新規事業ゾクゾク

すべて「男女共同参画基本計画」に基づいて計上された。たとえば、

内閣府 — 省庁再編で局に格上げになり、推進体制が格段に強化され4億500万円

国の事業にジェンダーに敏感な視点が入っているかのチェック、各省庁の窓口担当者に対する研修などなど。また、女性センター、婦人相談所、警察など地域の苦情処理窓口で苦情処理状況の報告書提出を求め、窓口のヒヤリングも行う。

夫から妻への暴力(DV)、女性へのつきまとい(ストーカー)などが社会問題化しているため、女性に対する暴力関係予算に22億3700万円 — 警察庁

警察部内のカウンセラーの増員、警察への届け出をためらう被害者に対する民間の相談員委嘱、警察での担当職員の研修、被害者への配慮設備、継続的支援のためのカウンセリングアドバイザーや地域のボランティアサポーターの委嘱、ストーカー行為の取締りに必要な機材設備、防犯器具の貸し出し等々。

厚生労働省 — 厚生省と労働省が統合された事業に1兆92億円

地域の子育て支援機能強化に向けたファミリーサポートセンターを82か所から182か所に大幅増、新エンゼルプランの推進をはかるため低年齢児の保育所受け入れを2万人増やす。延長保育千か所増、休日保育百か所増、放課後児童クラブを5百所増、障害児受け入れ促進試行事業を百か所創設。

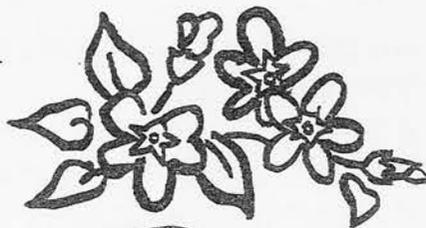
夫等の暴力から遠ざけるために遠くの婦人相談所等への避難、入所女性の不安解消のための夜間警備体制強化、母子の心のケア実施。などなど。

文部科学省 — 合計記載なし

メディアにおける女性の人権の尊重のための調査研究費、親を対象とした「0才からのジェンダー教育推進事業」、「キャリア教育実践モデル地域の指定」など男女共同参画を推進し多様な選択を可能にする教育・学習の充実に多くの予算をあてている。

農林水産省 — 合計記載なし

農業就業人口の6割を占める女性の役割が適正に評価され、経営に積極的に参画することができるように予算を配分する。たとえば、女性の農産加工等の活動の促進のため、銀行では男性(夫)名義や不動産の担保なしにはできない資金の貸付け予算を70億4200万円とっている、などなど。



遙洋子 講演会

—あなたらしく 私らしく みんなが輝いて生きるために—

葛西よう子

さる3月24日、長崎女性センター・アマランス主催の「女性フェスタ」の最終行事として遙洋子の講演会が長崎ブリック・ホールの国際会議場で開催された。さすが大阪系タレント、「東大で上野千鶴子にけんかを学ぶ」の著者だけあって、面白い言い回しの間にフェミニズムの立場からのするどい指摘が所々方々にちりばめられていて、笑いの間に目から鱗といったとても楽しめた講演会だった。以下そのさわりの部分をまとめてみました。

普段は金髪、大阪では金髪、東京でテレビに出るときは黒いかつらで大阪弁もなし。ワイドショーでは黒いかつらでスーツ、「圧倒的に見ているのは主婦層だから」とプロデューサーには要求する。かっこいい服着ても中身はアホでいるのに。テレビで自分の居場所が良くなるようにがんばっているが、きびしい現実ぶち当たる。年を取ると市場価値がなくなると肌身に感じる。リポーターは20才台まで、アップでしわが写らないため。年々きびしくなる職場、行政の世界もきびしい、その1つが土俵問題、差別はだめだ、しかし土俵問題は伝統問題だとか言われているなかで、何を差別と認めるか判断する上でフェミニズムという分野の研究が必要だったと思います。1970年代より研究分野が充実してきた、30年の間にいろんな理屈をたたき上げてきた、それを知っているかどうかで、土俵問題の視野がちがってくる。

「なんで土俵に登りたいのか、パフォーマンス奴！」というのは知事が女性だから来るバッシング、チャレンジかパフォーマンスか、受け手、記事の書き手側の観念が見える。

メディアの読み取り方、出している本人、企業のもの考え方こみで見抜く力が必要だ。イベントの舞台としての土俵、今までどうりあったイベント、従来代々あった儀式、それを女だからと却下された、知事がですよ。理由は女だから。原始仏教では女は汚れている、血を流すからという発想があるが、そうは言えないので代わりに出てきたのが伝統という言葉だった。

「女ですから」と言えない時代になっているから「伝統」という。一番傷つきムカついているのが太田さん。それをつきつめると総理になっても駄目、どれほどキャリアを積んでも女であるから駄目が勝つエリアがある。そこが残っている限り、そのバリエーションはいくらでもつくれる。伝統という言葉はフェミニズムの研究者が格闘してきた言葉、女をだまらせるために使われてきた言葉だ。伝統とは根拠を問うことを禁止する言葉、その問う姿勢そのものを禁止する言葉で研究者の間では死語になっている。それを知らない私たちがいて、言葉が人の行動を規制する力として使われている。学問は理屈の宝庫、ムカつく女性にとっての理屈の山。文化という言葉も似ている。「女をなくるのは日本の文化」とかいうが、文化とは大正時代に拓がった、その程度の歴史しか持たない言葉だ。自分が生まれる前からあった言葉に人は弱い。調べてみると、なーんだとなり、私をだまらせたいおじさん言葉だとわかって規制されなくなる。じゃあ相撲は昔からなにも変わらなかったのか？ 外国人力士は入ったし新弟子検査の基準も変わった。いっぱい変えたのに女人禁制だけは変えない。女から貰うより副知事の男から貰いたい。イヤな気持ちになっている女、太田さんがいるというのは差別だ。自分が当事者になったら差別じゃないと言いますか？

内館牧子は「伝統の領域は現代の差別とは違う」「歌舞伎、宝塚にそれが無くなれば歌舞伎宝塚でなくなる」というが、太田知事はなにも「相撲とらせて」とは言っていない。

カテゴリーとして女は汚れているということに、違和感を覚えるチャンスがあれば覚えるがチャンスがないと覚えない、というのが現代だ。そういう環境下に起こった土俵問題だ。

伝統文化が生き残ったのは少しずつ軌道修正してきたから、生き残らせたいのであれば変えたほうが生き残れるだろう。突き詰めていくと「男性が腹が立つ」という感情だけが残る。

何で!と思った時、ま いいか とやり過ごすにはちょっとしんどいぞという時、私はフェミニズムの勉強をした。

石坂理論=私の愛の手で介護するという嫁さんの手による介護

国会における辻元清美バッシングは性の二重基準の現れ=男はいいけど女は駄目

恋愛結婚、ロマンチックラブの生活のなかで働きづめの妻、過労で倒れる女、上野先生の言葉「女性の社会進出は解放でなく二重の杞剣である」

このくやしさを目に見えるものにしてくれるのがフェミニズムの学者だ。

あなたはどの見方が心地良いですか？ あなたにあう理屈をあなたが獲得しなさいの宝庫がフェミニズムです。ちょっとおかしいぞ ハラがたつぞ という思いのある人にはそれを取り扱う宝庫がある、それがフェミニズム。

- タレントって顔小さいんだなー 体細いんだなー びっくりした。
- 笑って 元気でて 理屈がとても良くわかった。ウレシカッタ!

